

# 『函西さつぽろ』

支那会報

つ、じヶ丘同窓会札幌

第5号

2008年9月1日  
発行部数：2000部  
発行責任者：事務局  
編集長：伊藤祐輔

志高く

つ、じヶ丘同窓会札幌支部

平成二十年度総会に向けて

支部長 林 寿正

皆様には益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平成十五年に函館西高も創立百年という大変大きな節目を迎えました。また、歴史ある函館は、今年開港百五十年を迎える所です。函館の歴史が西部地区から始まってご承知のように現在は、駅前から五稜郭へ、そして美原町を越え桔梗まで移動しています。丸井デパートが末広町にあつて、サケマスの北洋漁業の独航船が一斉に函館港を汽笛鳴らして出て行ったのがとても懐かしく想われます。現在は高速道路函館バイパスや横津岳から見る裏夜景、新五稜郭タワーから見える360度の景観などが新鮮な観光スポットとして自慢のネタになっています。

一世紀に及んで巣立った3万5千人余りの同窓生は、それぞれ様々な人生模様を描きながら時を刻み、その暮らしたは函館のみならず札幌、全道、本州、そして海外まで広がっています。そんな現状を考えたとき、札幌近郊にたまたま偶然縁あつて暮らし

ている皆様が、同じ西高卒業生として知り合い、結びつきを深めたら、きっと何か素晴らしい有意義なものが生まれる気が致します。敢えて言うなら「もし何もしなかったら「何ともつたない同志たち・」とも思います。百年の間に生まれた伝統は、

今日までの自分たちの生きた証そのものであり、その歴史を率直に受け入れ、そしてこれからの未来へ生かすためのステップにすることが大事なことと思われま

す。現在までの人生は、それぞれにはそれぞれの人生模様があり、それは消え去ることの出来ないものであり、だから皆様でまた新たな人生の開拓をするきっかけにこの同窓会を活用していただきたいと思ひます。毎回触れておりますが、最近の同窓会ブームは、人間関係の希薄な世の中にあつて、やはり人と人のつながり、こころの結びつきの大切さが見直されてきているからでしょう。現在、世話人たちで十月十日の総会に向けて準備を着々と進めているところで、いろいろなご意見やご事情がおりかと思ひますが、この時代の同窓会を是非ともご理解いただき、そして当日の気軽なご参加を心よりお待ち申し上げます。

なご参加を心よりお待ち申し上げます。



函館西高「つ、じヶ丘同窓会」

会長 本間麟太郎

函館西高つ、じヶ丘同窓会札幌支部の会報誌「函西さつぽろ」第5号が、林支部長はじめ多くの方々のご努力により発行されました。そのご尽力に深く敬意を表したいと思ひます。ご案内の通り、我が函館西高も一昨年、百周年という節目の年を迎え、多くの同窓生の熱い思い、情熱ですばらしい祈念式典、記念事業が成功裡に終了することが出来ました。札幌支部の皆さまはじめ全国の同窓生の皆様に新ためて御礼申し上げます。

輝かしい歴史と伝統を誇る西高の学校側、生徒諸君も、今後の西高の新たな歴史を築くべく気持ちを一つに、更なる飛躍を心に誓つて日々取り組んで行かれることと思ひます。私共同窓会も機会あることに母校にメールを送り、すばらしい成果をあげるようにバックアップし

ていきたいと思つているところでございます。さて、同窓会活動は、同じ学舎で共に八幡坂を昇り降りした青春時代のページを想い起し、ノスタルジックな気分を満喫出来る場ではないかと思つております。特に全国各地・各方面で活躍されている同窓の皆様には、西高・函館を身近に感ずることが出来、当時の思い出に懐かしさも一人のことと思ひます。東京支部、関西支部の皆様も活発に活動され、新ためて同窓意識を高め交流を深め、絆を強くされておられます。札幌支部におかれましても、新スタッフの皆様の熱意により、ユニークな会の運営を企画され、道内広く多くの同窓の皆様が参加出来る体制を築かれることを心強く思つております。更なる御発展、御活躍を祈念申し上げます。



函館ベイエリアからの風景



『珊瑚会』幹事のつばやき

久保勝哉（十回生）

去る、5月8日（木）朝9時30分過ぎ、約束された好天のもとに指定集合場所である札幌駅北口広場に集う『珊瑚会』の面々がいた。当日は、『珊瑚会』札幌支部の記念すべき設立総会ということで、本行事は幹事一同が正月段階から立案検討に入り、準備を進めてきた経緯がある。

4月の『定例幹事会』にて、出席状況の中間報告が岡田総務担当から報告があり、最終参加人員を悪くても、最低20名に届けば上出来だろうと幹事も腹を括っていた。

すでに対象者各位には、総務担当より資料として本設立総会（兼親睦会）の予定日程表、本総会開会次第、花田支部長の参加呼び掛けの文面『花見に行きませんか？』等の印刷物を同封して郵送されて、あと時間の猶予も余りないが、各幹事にてもう一汗かいて欲しい依頼があった。

さて、当日の朝の定刻に集まったのは、いつもの常連幹事さんとニューフェイス2名の15名であった。会場の『小樽、朝里川温泉の宏楽園』の八重桜は、ことのほか艶やかに私たちを出迎え、見るものの心を和ませてくれた。豪華絢爛たる八重桜に目を奪われ、花びらの散り行くさまを追いながら、一瞬私の脳裏をよぎったものは、総務担当から依頼されていた「一汗かいてくだ

さい。」に対する、自分の取り組みが十分であったか否かと云う事であった。

お誘い電話2本で、しかも双方とも『空振り』であったものを、『ヨシ』とした自分サイドの判断が短兵急過ぎて、特に最近は一時の緊張感がなく『流され症候群』になって来ているのではないかとの焦燥感におそわれた。総務担当作成によるメール・資料等による郵送、必要の都度到他会員への電話による再勧誘等の双方向志向のコミュニケーション取りを従来どおりに行ってきたが、残念ながら諸会員の多数がこの行事に対する『参加』についての『賛意』を表さなかったことは、今回結果をみて、厳肅なる事実として受けざるを得ない。

今後、数多くの同期会行事の企画立案を検討、実行、分析することになるのは、この世に存命中で、日常活動に不具合がない健康状態であれば、微力ながら協力して行く事と覚悟をきめているがその都度幹事連が、その結果について必要以上悩まないですむような『心の在りよう』換言すれば『幾つもの変数を有する連立方程式の解を導く手法、その考え方を確立し、共有して行く必要性を強く感じた。数日間、そのヒント探しに何時に無く長考した。錆び付き気味の『我が思考回路』を働かせて考えてみた。だいたい貯まった『珊瑚会』関係の資料を整理し、

過去に発行されたものに目を通しながら情景を思い浮かべていった。ふと気が付けば、今回発行の支部長の前述の『お誘い文：花見にいきませんか』の文面に我が目が釘付けになっていた。『これ、これ、これだー！！』情けない自分が一筋の曙光を見出した。流石に、我が珊瑚会札幌支部長である。『何もバスに乗ってから、悩むことなど無用だよ！』そんなことは、当然の読み筋で、みんながぶち当たる『虚栄心』というやつです。文面はさらに未熟者へ易しく説いていく。私たちが、一生懸命「活動」することを、会員は必ずどこかで見ていく。行事期日の都合がよければ『参加』するし、不都合な事情があれば、『欠席』だろうし、よしんば、今回は不参加であつても、次回はまた違う風が吹くものです。

それでよいのです。そのように、みんなが思える珊瑚会活動が組織的平衡感覚としては一番優れていて、健全な組織運営が出来ているという証しなのです。絶対現在という時間の制約の中で、私たち幹事が行わなければならない事

は、ただ一点『珊瑚会の門戸』をひたすら、頑固に、いつでも開放する、又開放しておくということです。今まで一度も参加できなかったひとにも、毎回元気で参加する常連さんにも、物故なされた会員さんの魂も含め、『いつでも』、『誰でも』、『函館・札幌で』をモットーに、幹事は毎回全力投球すれば良いのです。まことに有り難い言葉が文面の行間から滲み出て来る。とどめは、『結果は問うのではなく、付いてくるものなのです』と説く。かつて、チームリーダーの役割は、悩める局面・分岐点で明確な『ベクトル』を指し示すことである、と何かで教わりました。

『ありがとう、支部長さん』と快哉を叫んでいる、悩んでいた筆者がいました。

おわり





「鳥の目を持った絵師 石原 正」

伊藤 祐輔（五回生）

うかつだった。同期の石原君が亡くなつたのを知つたのは最近のことだった。

大分前のはなしであるが、彼からNHK教育テレビで彼の特集をやるので見てくれというハガキが届いた。漫画を描くのが得意で、授業中も教科書のかげで描いては休み時間に見せてくれたものだ。その後、金沢の美大を出て大阪でデザイン関係の仕事をしてきた。一度、美大在学中に函館の大門で飲んだことがあるが、金沢では「だらしがないので美大生には部屋貸すな」とか「弁当忘れても傘忘れるな」という言い伝えがあると教えてくれた。彼からの年賀状は、やはり漫画風で楽しみにしていた。彼の特集テレビはその後何回か再放送されているが、それには「鳥の目を持った絵師」と紹介されていた。小型飛行機で町並みをカメラに収め、それをもとに家一軒ごと、木一本ずつをペンで描きこんでいくのである。今までに大阪やニューヨークの街を作品として仕上げ、国内のみならず海外でも作品展を開き高い評価を得ているとのことであった。さっそく「ご活躍おめでとう。函館の町も描いてください」と出したら「手が回りません。しばらくぶりに函館に帰りたい」と返事がきた。「鳥の目を持った絵師」も羽根を持つのは大変な様子であった。

これが石原君と私の最後のつきあいであったが、ある西高の後輩から函館市史編纂室および函館中央図書館が作成しているホームページ「はこだて人物誌」に石原君のことが載っていると教えてもらったので、それを全文掲載して同窓生の方々に広く紹介したいと思います。

石原正（いしはらただし）1937～2005年

故郷・函館図の作成を実現できず志半ばにして世を去つた、我が国の鳥瞰図絵師（ちようかんずえし）の第一人者

昭和十二年三月二日、春日町（現・青柳町）で生まれる。青柳小学校、谷地頭中学校、西高等学校を経て、金沢美術工芸大学に進む。少年時代は漫画家や画家を夢見、函館山から見下ろす港や町並みを見て育つ。この体験が独特の目を養った。大学卒業後は大阪読売広告社で広告デザインを習得する。

鳥瞰図（ちようかんず）との出会いは、昭和三十九年、石原正二十七歳の時。訪米した友人が、ニューヨークの鳥瞰図を持ち帰り、それを見た時「背筋に電流が流れ、神の目のようだった」と語っている。そのドイツ人、ヘルマン・ボルマンが描いたニューヨーク鳥瞰図に衝撃を受け転身を決意、広告会社を辞めて、昭和四十四年の大阪万国博覧会の絵図制作を契機に鳥瞰図絵師として独立。出版社「バースアイ」を立ち上げる。鳥瞰図とは高い所から見下ろし

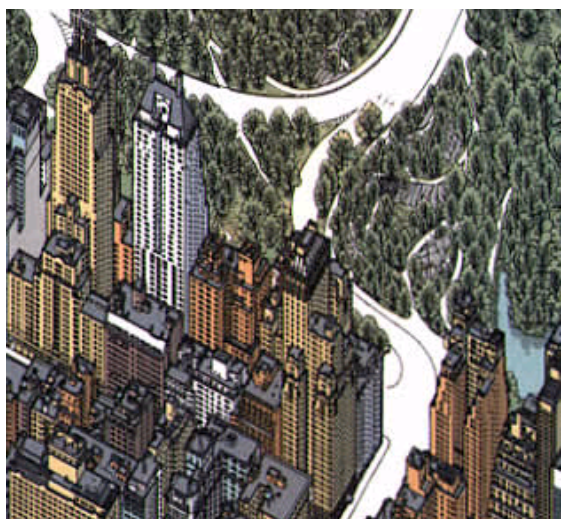
に描いた風景または地図のことで、鳥の視点をもちながら地べたを這うような気の遠くなる因果な仕事で労多く益の少ない作業だけに、石原正に続く絵師など誰もいなかった。「これで飯が食いたい。そうすれば後継者も出てくるだろう。僕は芸術だと思ってるが、この国ではなかなか理解されなくてね」副業のコンペの計画書づくりやデザインなどで稼いで

は、絵図の取材・制作費につき込んだ。石原正が描く鳥瞰図は四〇度前後の角度から見下ろした街を、一軒一軒の家まで精密に描いている。縮尺も正確で地図としても利用できるほどである。

以来、「千里ニュータウン絵図」「奈良絵図」などを手がけ五九年と六一年の二度にわたりニューヨークへ飛んだ。町並みを正確に描くためには写真が不可欠で、ニューヨークではヘリコプターをチャーターして空撮七千枚を含む一万二千枚をすべて自分で撮影し、マンハッタンを歩いて街の表情を観察した。四年がかりで完成した四畳半大の「あるニューヨークの一日」には、窓が二九万、車四千台、八千人の市民、樹木三千本、犬八匹……がびっしりと描かれた力作で、見る者を圧倒する。平成七年、戦後五十周年の夏、マンハッタンで広島型原爆が爆発する瞬間の絵図を発表。戦時中、疎開先の森町で米軍機の機銃掃射を受けた体験を踏まえて「マンハッタン計画」（原爆製造

描いた絵本「あばれたけぞう」がある。

石原正が描いたニューヨーク鳥瞰図の一部



今年も十年ぶりに五稜郭の満開の桜に出会うことができました。タワーから見下ろした桜もよいけれど、2階ロビーのガラス越しの桜の迫力は息をのむというのがびったりの美しさ。「五稜郭タワーに一度は行ってみたい」と、つい函館のPRを札幌の友人達にしています。

十年前、桜は満開でしたが寒い日でした。三十六年卒業(十一回生)の女性有志の「なでしこ会」に参加のため函館を訪れました。寒さにふるえながら熱いおでんを分けあっていた思い出が鮮明で、公園も今回のように賑わってはいなかった気がします。タワーの威力が大きいのではと今回は感じてきました。さて、十年以上も続いている十一回生女性有志の「なでしこ会」。会則も会費も無い、月一回集まって昼食会や小旅行を楽しんでいる函館在住の女性達。私も年に一回以上は参加させてとお願いして、函館の仲間と交流を続けています。

いくつになっても語り合える同期の仲間が元気に会えることに感謝して、この会が続くかぎり年に一回は函館に行くことに決めています。



現在、刀匠として活躍中の西高十七回生の松田周二さんを紹介させていただきます。松田さんは西高から道教大札幌校特設美術科へ進み画家を目指しましたが、その後日本刀の迫力に惹かれて修行にはげみやがて独立して千葉に仕事場を構えました。鎌倉時代の日本刀を再現するため独自で研究に没頭し、古刀に匹敵するような作品を完成するに至りました。一九九九年、ロンドンの大会で高い評価を得てから各方面で活躍し、三年前から東京工業大大学院で講義を担当しております。また、数々の賞を受賞しており一九九六年に新作名刀展で協会会長賞、以後特賞を連続受賞し、二〇〇四年に熱田神宮に製作した日本刀を奉納、二〇〇六年に最高賞の高松宮記念賞を受賞しました。そのほかに、就士会という刀の勉強会を主宰し、日本刀の正しい知識の普及につとめられております。今後の目標は「ややもすれば低い現代刀の評価を高めるようなオリジナルな作品を作りたい」とのことです。われわれも松田さんのこれからの活躍をおおいに期待いたしますしよろう。

(内容は六月十五日 道新日曜版と東京支部事務局長高橋順吉さん提供のスケジュールサイクル協会発行STEELE CANA GEから抜粋編集させていただきました)

七月八日の道新夕刊に掲載された鍼灸師陳有昭さんの記事の一部を道新と本人の了解を得て、当会に寄せられたコメントと共に紹介いたします。陳さんは西高卒業後、京都の中国書籍専門店に勤めながら中国語を学び、結婚を機に函館に戻り「大極はりきゅう治療院」を営んでおります。このたび中国医学(漢方)の用語を日本語に翻訳、編集した「中国医学辞典基礎編」を五年ちかくかけて完成させ、たにぐち書店から出版しました。はじめて学ぶ人にも使いやすいように工夫してあり「これから勉強する若者に役立ててほしい。いずれ鍼灸編も出版したい」と抱負を語っています。B5版七百二十四ページで五千二百五十円。札幌や小樽の大型書店で扱っています。

\*\*\*\*\*



北海道新聞に掲載された松田さん



ふしぎな縁

陳有昭(十四回生)

『函西さつぼろ』第5号発行おめでとうございます。私にとって同窓生で縁があるのは、なぜか5回生なのです。まず、二人の従兄、東海飯店の陳有饗氏(故人)と開業医の陳有渠氏がそうです。尊敬していた陳有饗氏から五西会の素晴らしい活躍をよく聞かされてきました。私は在学中、生物部で小杉繁三郎先生の指導のもと白井馨先輩(故人)も参加され、大学での研究の経験を活かしてくれたものです。その後、先輩は西高で教鞭をとり生物部の顧問をされ私は公私ともお世話になりました。今回もやはり5回生の伊藤様から原稿依頼があり、先輩達とのふしぎな縁に驚いている次第です。



## メッセージ

昨年の総会を残念ながら欠席された方からのメッセージを一部ご紹介いたします。

(敬称略)

**加藤喜久(高女29)** 腰痛の為長時間の座居は不可能のため欠席させていただきます。ご盛会を祈っております。年会費は送付いたします。

**馬嶋元子(高女39)** 昨年の創立百年式典出席。素晴らしい感動とたくましい後輩のパワーに胸が熱くなりました。あまり校歌も歌われない現代っ子、大人になってからの「つながり」があるのでしようか。何時もお知らせ有り難う御座います。旅行と重なり残念ながら欠席ですが、来年は元気で出席致したく存じます。往復はがきが手許にありましたのでお役に立てればと同封いたします。皆様どうぞお元気でお過ごしくださいませ。

**渡辺清(西1)** 老人クラブの行事と重なり残念です。体調は七五歳なりのマアマアの健康状態です。

**吉田和子(西1)** 同窓会通知ありがたく拝見致しました。幹事の皆様にはご苦労様です。当日は所用の為残念ながら欠席いたします。

**名取昭二(西1)** ご苦労様です。参加会員増についてなど心配しており、お役に立てる事あればと思います。

**新井田治子(西1)** 函館の景色の入った案内状、嬉しかったです。高齢の為夜の外出は控えておりますのでごめんなさい。

**相原宗和(西1)** ご連絡有り難う御座います。今回は所用あり残念ながら欠席します。皆様によくお伝え下さい。

**吉村隆(西2)** 同期会には折々参加しております。同窓・同期の仲間と会うのは感動的です。ご盛会をお祈りします。

**生内一二三(西2)** ご案内いただきましたが、都合がつかず欠席いたします。幹事の皆様ご苦労様です。

**樋口文喬(西2)** 幹事さんいつもご苦労様です。日程の都合がどうしてもつきません。ご盛会を願っています。

**渡辺昭治(西2)** 都合悪く残念ながら欠席いたします。盛会を祈念いたします。

**河辺政子(西3)** ご丁寧な案内をいただき恐縮に存じます。あいにく所用があり参加できません。ご盛会をお祈りします。

**沼澤良生(西3)** ご案内有難うございます。当日、旅行中につき欠席します。

**佐々木美弥子(西4)** ご連絡有り難う御座います。旅行の予定あり失礼致します。ご盛会を祈ります。(会費は振り込み致します)

**板谷由紀子(西4)** すこぶる元気ですが、旅行から帰るのが一六日ですので今回は失礼致します。

**鈴木マチ子(西6)** 町内会婦人部の旅行ありゴメンナサイ！会費は二十日に振り込みます。

**豊島和代(西7)** 旅行とぶつかり出席できません。次の機会を楽しみに致します。

**鈴木良和(西9)** 連町役員で行事と重なり都合つきませんが今後ともよろしく願っています。

**饗場恵津子(西10)** 娘の結婚準備の為上京予定あり残念です。

**村上利子(西12)** お知らせ有り難う御座います。10月27日函館にて同期会あり失礼致します。

**庄司美千恵(西12)** 今回始めて案内頂き、出席したい所ですが会社行事と重なり欠席いたします。幹事の皆様大変でしょうが今後も宜しくお願い致します。年会費は本日振込みます。

**上野映子(西13)** 去年百周年に出席しました。皆様によるしくお伝え下さい。

**石本康平(西14)** 幹事様大変ご苦労様です。仕事との折り合いつかず残念ながら欠席させていただきます。

**荒明洋(西15)** 来年こそは出席と思いつつ、もう何年も実現しておりません。仕事の為、今年も申し訳ありませんが欠席です。盛会を祈念いたします。

**松本宏一(西15)** 日程調整できず、とても残念ですが欠席します。

**高野一夫(西16)** 東京出張の為残念ながら欠席いたします。

**長津博(西16)** ご案内を頂き有り難う御座います。当日は函館に行く為欠席しますが来年は是非参加したいと思えます。

**浜本美子(西20)** いつかは出席してみたいと思えます。

**山田千賀子(西20)** いつも欠席で申し訳ございません。素敵な時間をお過ごし下さい。

**鈴木美和子(西21)** 連絡有り難う御座います。当日札幌不在の為出席できませんが、皆様に宜しくお伝えください。

**佐藤真理子(西22)** 当日予定あり出席できません。

**片山礼子(西22)** 今年の夏、久しぶりに函館に遊びに行ってきました。懐かしかったです。

**藤脇光一(西23)** 事務局の皆様ご苦労様です。仕事の性質上出席不可能の確率高いので欠席とします。ご案内いただき御礼申し上げます。

**出村ますみ(西26)** 幹事の皆様ごころうさまで。仕事の為欠席いたします。

**小林秀子(西27)** 先日、久しぶりに函館山に登り、上から西高のグラウンドが見えなつかしく思いました。

**石間勝之(西27)** 役員のみなさんご苦労様です。仕事でいけませんのでよろしく。石間峰子(西27) 仕事の為行けません。準備の方々ごころうさまで。

**支倉結香(西28)** お知らせ頂き有り難う御座います。とても懐かしく葉書の写真を見せて頂きました。

**戸谷慎子(西28)** 御案内いただき有り難う御座いました。所用あり残念ながら出席できません。皆様にくれぐれもよろしくお伝え下さい。先日久しぶりに元町付近に行きましたが、ずいぶん変わっております。クラス会が年に一度(一月三日)ありますので今度ゆっくり散策したいと思っております。函館はいい町だな。この頃シミジミ思います。今後支部会にも出席させていただきます。今後支部会にも出席させていただきます。ご盛会をお祈り申し上げます。

**小関忍(西28)** お世話になっております。民生委員の懇親会と重なりましたので欠席させていただきます。

**中村嘉寛(西30)** 仕事の調整がつかないので欠席させていただきます。

**三本木桂子(西30)** 仕事の都合で参加できませんが皆様によるしくお伝えください。

**内藤有紀(西36)** 子供が小さいので今回は失礼します。次回は出席できるようにしたいと思えます。役員の皆様ご苦労様です。

昨年の総会資料として当日配布(欠席者には会報4号に同封)した中から一部をご紹介させていただきます。

## つ、じヶ丘同窓会札幌支部ホームページ開設のお知らせ

<http://www.tsutsujigaoka.net/>

会員同士の更なる「情報交換」「情報発信」のために ホームページを開設しました。

**まずはご覧下さい！** 西高 38 回生 竹内さんのご尽力により素晴らしい H.P となりました。皆さんからの情報発信のスペースとして『つ、じヶ丘同窓会札幌支部公式ブログ』を併設しましたので、赤字の“ブログ”をクリックしていただきコメント欄に書き込みも可能です。故郷函館や母校の思い出、札幌支部に対するご意見などお気軽にお寄せ下さい。



### 活動報告

事務局長 菩提寺 孝幸

#### 今年度の活動状況をご報告いたします。

平成 19 年 10 月 12 日

定期総会 & 懇親会 (ガーデンパレス) 会報 4 号にて内容報告済み

平成 19 年 12 月

会報「函西さっぽろ」第 4 号発行

平成 20 年 3 月 28 日

第 1 回役員会開催 (新役員顔合わせ、支部運営、総会について他)  
珊瑚会花田支部長オブザーバー出席、会報編集長に伊藤さん

平成 20 年 6 月 12 日

第 2 回役員会開催 (総会、会報、ホームページ開設について)  
今年も管内全員への案内決定、ホームページ担当竹内さん

平成 20 年 7 月 15 日

ホームページ開設

平成 20 年 7 月 23 日

支部長・事務局・H.P 管理者会合

平成 20 年 8 月 20 日

第 3 回役員会開催 (総会案内準備) \*案内状、会報作成

平成 20 年 9 月 1 日

会報「函西さっぽろ」第 5 号発行

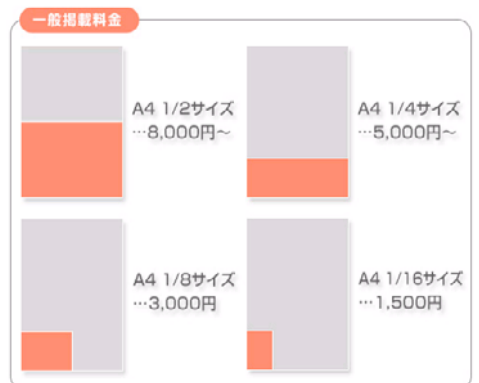
平成 20 年 9 月 8 日

定期総会案内発送 (予定)

### 広告協賛のお願い

札幌支部の更なる発展のために、広告協賛のご協力をお願いしております。法人・団体では交流促進や貴社の事業をアピールする目的で、又個人の方からはお名前やメッセージを添えて温かなお気持ちを頂ければと思います。広告の掲載は、会報・総会資料の他に封筒への名入れや H.P への広告も可能です。詳細は事務局までご連絡下さい。

#### < 広告サイズと料金 >



### つ、じヶ丘同窓会

本部：函館市元町 7 17 函館西高等学校内 0138 23 8415

HP <http://www14.plala.or.jp/h-oku190622/nisi-dousoukai1.htm>

#### 札幌支部

(支部長) 札幌市豊平区平岸 2 条 6 丁目 011 831 4622

(事務局) 札幌市南区南 38 条西 11 丁目 10 番 1 号 011 581 5626

(H.P) <http://www.tsutsujigaoka.net/>

(mail) [nishiko@tsutsujigaoka.net](mailto:nishiko@tsutsujigaoka.net)

つ、じヶ丘同窓会札幌支部は、皆様の会費で運営されております。年会費は 1500 円です。口座への振込みにてお願いします。北洋銀行大通支店(普) 0537344 つつじヶ丘同窓会札幌支部

< 編集後記 > 今回は函館の「今は呼び名が変わってしまった古い町名」や「登り降りした坂」の思い出を皆さんから募集いたします。また、俳句や短歌を楽しんでいる方もおられると思います。いずれも自由にご投稿お願いいたします。勝手ながら次号締切りは 11 月 10 日 (月) とさせていただきます。支部へのメール又は伊藤までご連絡下さい。

〒069-0816 江別市野幌住吉町 5-13 FAX 011-382-3431 (伊藤祐輔：西 5)